



編集の序

近年の内視鏡機器の進歩は著しく、新しい内視鏡システム・スコープが開発されるたびにその画質の向上に驚かされる。その画質の向上により、日常臨床で遭遇する各疾患の内視鏡像が低画質の時代で撮影されたものとは異なっていることを経験する内視鏡医も多いであろう。今回企画された内視鏡アトラスは『美しい画像で見る』という言葉に冠したものである。『美しい画像』には、現在使用できる最新の内視鏡システムが不可欠であり、本書は日常診療で遭遇するさまざまな疾患に対して、可能な限り最新の内視鏡システムで撮影された質の高い画像を厳選して掲載した内視鏡アトラスである。

本書は内視鏡初学者から長期にわたり消化管疾患に携わっているベテラン内視鏡医までの幅広い年代の医師に使用していただくことを目的に企画された。日常臨床で遭遇する上部消化管疾患は食道、胃、十二指腸の腫瘍性病変から炎症性疾患など幅広く存在するが、本書は遭遇する頻度による疾患の分類ではなく、姉妹書の『美しい画像で見る内視鏡アトラス 下部消化管』の分類と合わせることで、読者の使用しやすさを追求した。また各疾患については、遭遇率の低いような疾患についても可能な限りページを割いて載せる一方で、頻度の高い疾患については疾患概要から診断に必要な内視鏡所見、鑑別のためのピットフォール、病理診断に至る情報などを載せることとし、日常の内視鏡診療の際に手元に置く上部消化管疾患の百科事典としての役割だけでなく、上部消化管疾患を学ぼうとする医師の教科書的な読み物として活用いただける書籍となるように心掛けたつもりである。

消化管疾患に対する内視鏡診断には座学としての知識と日常臨床で疾患を目にすることで得られる経験としての知識が必要である。本書を多くの内視鏡診療に携わる医師の方々に使用していただき、より質の高い内視鏡診療の一助となることを期待している。

2024年9月

編者を代表して
小田島慎也